

平成 23 年度 事業計画・収支予算案議決

—理事会・評議員会開催—



平成 23 年 3 月 24 日午後 1 時 30 分から、広島市総合健康センター4 階広島市医師会臨床検査センター会議室において、「平成 23 年度事業計画及び収支予算等」を審議する理事会・評議員会の合同会議を開催し、審議の結果原案どおり議決された。

平成 23 年度事業計画及び収支予算の概要は次のとおりである。

＝平成 23 年度事業計画＝

本協議会は、国・県・市の指導と協力を得て、広島市医師会及び医師会員並びに原爆関係諸機関との密接な連携のもとに、平成 23 年度も引続き被

爆者の健康管理事業、被爆者の健康管理に関する調査研究事業及び被爆者の援護福祉事業を推進するほか、広島市からの委託による健康診査、がん検診等の事業を実施するとともに、指定管理者の指定を受けた健康増進事業、健康教育事業等の管理運営を行う。

また、新公益法人制度に的確に対応すべく、平成 23 年中に公益認定申請を行い、平成 24 年度における公益財団法人への移行を図る。

I 被爆者の健康管理事業

- 1 健康管理の推進—被爆者ががん検診を積極的

本 号 の 内 容	1 平成23年度事業計画・収支予算案議決	……1	6 健康科学館企画展のご案内	……9
	2 第20回胸部X線写真読影合同検討会	……5	7 行事と会議	……9
	3 第56回胃集検合同検討会	……6	8 人事	……10
	4 第4回マンモグラフィ読影合同検討会	……7	9 来館者	……10
	5 医療機器の整備	……8		

に推進するとともに、被爆者の高齢化に伴う諸状況を考慮し、特に次の事項に重点をおいた取り組みを行う。

悪性新生物の早期発見／生活習慣病の早期発見と指導

2 健康診断医療機器等の整備—電子内視鏡システムの更新整備／超音波画像診断装置の更新整備／FPDデジタルX線透視撮影装置の更新整備／医用画像情報システムビューアーの更新整備／肺がん検診読影判定システムの整備

3 被爆者健康管理資料の整備—受診者に関する健診資料の分類整理・保存／健康診断実績・結果等諸統計の作成・保管—調査研究資料の管理体制を整える。

II 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

1 調査研究の継続実施

- ・「被爆者がん検診の意義に関する研究」
- ・「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」
- ・「被爆者の糖代謝に関する研究」
- ・「肺がんに関する研究」
- ・「加齢に関する研究」

2 文献の収集—原子爆弾後障害に関する医学論文、原爆関係図書の収集・整理保管

3 第52回原子爆弾後障害研究会の開催（6月5日、ホテル八丁堀シャンテ）

III 被爆者の援護福祉事業

1 被爆者相談の実施—被爆者の生活、健康及び医療についての相談に応じ、必要な指導・援助を行う。

2 援護の実施—「原爆被爆者援護規程」に基づき、被爆者の援護・福祉の増進を図る。

生活困窮者に対する援護金支給／有福温泉療養者に対する交通費補助／被爆身体障害者等に対する見舞金支給／福祉用具貸与・購入費補助／その他必要と認める経費の一部

補助

3 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営—原爆被爆者有福温泉療養研究所運営協議会（会長江津市長）に運営を委託し、必要な支援を行う。

被爆者の高齢化等による利用者の減少により利用収入での運営が困難となっているため、引き続き運営費の補助を行う。

IV 被爆者の健康診断事業

1 健康診断の実施—被爆者の高齢化が進むなか、健康管理の一層の充実を期するため、健康診断体制の整備充実に努めるとともに、関係当局と連携のうえ、受診率の向上を図る。健診日数・健診会場の適正化／広島市健康づくりセンター婦人科検診スペースの改修による婦人科検診の充実／土曜・日曜健診の実施／乳がん・子宮がん検診日の追加（第3日曜）／受診促進のための啓発活動／被爆者二世健診の実施

実施目標	一般検査	23,500 件
	精密検査	24,500 件
	胃がん検診	4,000 件
	肺がん検診	11,000 件
	子宮がん検診	2,300 件
	乳がん検診	2,800 件
	多発性骨髄腫検診	15,400 件
	大腸がん検診	9,500 件
	骨粗鬆症検診	5,300 件

V 高齢者医療確保法等による健康診査事業

1 高齢者医療確保法に基づく特定健康診査・特定保健指導の実施

実施目標（広島市国保）

特定健康診査	14,000 件
特定保健指導（積極的支援）	50 件

2 健康増進法に基づくがん検診等の実施

実施目標	胃がん検診	20,000 件
	肺がん検診	22,000 件
	子宮がん検診	10,000 件
	乳がん検診	11,000 件

大腸がん検診	12,100 件
肝炎ウイルス検査	200 件
骨粗鬆症検診	1,800 件

3 感染症予防法に基づく結核健康診断の実施
実施目標 13,500 件

4 後期高齢者に対する健康診査の実施
実施目標 3,100 件

5 健康管理資料の整備—受診者に関する資料の整理・保管、カルテ保存システムによるカルテの記録・保存

VI 広島市健康づくりセンターの管理運営事業

1 広島市から指定管理者の指定を受け、広島市健康づくりセンターの施設の維持管理を行う。

2 健康増進事業—医学的検査に加え、運動負荷テスト、体力測定、栄養調査を実施し、その結果に基づく運動指導や栄養指導を行うことにより、市民の健康の維持・増進を助長する。また、スポーツ選手のメディカルチェックを実施し、広島市スポーツ協会等と連携を図りながら、競技力向上に資する。

実施目標

基本コース	886 件
(うちスポーツ選手のメディカルチェック100件)	
精密コース	1,844 件

3 健康教育事業—健康に関する最新情報をわかりやすく正確に提供するとともに、積極的に教育研修等を実施し、日常における健康管理についての正しい知識の普及を図る。

- ①健康科学展示施設の運営—企画展 4 回、パネル展 12 回
- ②健康ライブラリーの運営—図書・ビデオを利用した学習の場の提供／インターネットによる健康情報の提供
- ③健康に関する教育研修の実施—主催による研修会・イベント 46 回／パパママ育児スク

ール 34 回／他の関係機関との共催による研修会 25 回

④ボランティア（ヘルスサポーター）の養成・育成—養成講座（6 課程）6 回／ボランティア育成講座 2 回／ボランティアの活動 430 回

4 ファミリー・サポート・センターの運営—ファミリー・サポート・センターを設置し、会員同士の子育てに関する相互援助活動を行うことにより、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図る。

5 つどいの広場の運営—育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図る。

VII 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

- 1 放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）の主要推進団体として協力する。
- 2 来日被曝者の健康診断・医療相談等の実施

VIII その他目的達成に必要な事業

- 1 被爆者または市民の健診の結果、悪性疾患等が疑われた場合、確定診断や病期判定のために詳細な検査を行い、治療が必要な場合には、外部医療機関等との連携により最善の方策を進める。
- 2 広島市医師会との協力のもと、事業所・個人からの依頼による人間ドック検診、事業所健診、生活習慣病予防健診等の健診を行うとともに、広島市医師会との連携により、医師会員からの依頼によるCT・MRI検査等を行い、積極的に外部医療機関との協力を推進する。

収支予算総括表（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	一般会計	健康管理 センター会計	被爆者援護 福祉事業会計	健康増進・ 教育事業会計	内部取引消去	合 計
I 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
基本財産運用収入	1					1
特定資産運用収入	124	2,050				2,174
被爆者健康診断収入		575,740				575,740
健康増進法検診収入		315,470				315,470
特定健診・保健指導収入		140,060				140,060
結核住民健康診断収入		23,230				23,230
健康増進収入		10,087				10,087
受託収入				155,710		155,710
利用料収入				3,426		3,426
診療収入		222,000				222,000
その他健診等収入		124,078				124,078
寄附金収入	1,000					1,000
雑収入	185	131				316
他会計からの繰入金収入	231,030		26,451		△ 257,481	0
事業活動収入計	232,340	1,412,846	26,451	159,136	△ 257,481	1,573,292
2. 事業活動支出						
生活相談費支出	4,564					4,564
資料統計費支出	22,417					22,417
健康診断費支出		1,221,055				1,221,055
調査研究費支出	266	4,000				4,266
後障害研究会開催費支出	3,487					3,487
原爆被爆者対策費支出			26,451			26,451
健康増進費支出				75,540		75,540
健康教育費支出				68,211		68,211
ファミリーサポート・つどいの広場費支出				15,385		15,385
管理費支出	181,704	49,726				231,430
他会計への繰入金支出	26,451	231,030			△ 257,481	0
事業活動支出計	238,889	1,505,811	26,451	159,136	△ 257,481	1,672,806
事業活動収支差額	△ 6,549	△ 92,965	0	0	0	△ 99,514
II 投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
特定資産取崩収入	10,814	231,189				242,003
固定資産売却収入		2				2
投資活動収入計	10,814	231,191	0	0	0	242,005
2. 投資活動支出						
特定資産取得支出	1,001	2				1,003
固定資産取得支出	264	188,031				188,295
投資活動支出計	1,265	188,033	0	0	0	189,298
投資活動収支差額	9,549	43,158	0	0	0	52,707
III 財務活動収支の部						
1. 財務活動収入						
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出						
リース債務支出		693				693
財務活動支出計	0	693	0	0	0	693
財務活動収支差額	0	△ 693	0	0	0	△ 693
IV 予備費支出	3,000	20,000				23,000
当期収支差額	0	△ 70,500	0	0	0	△ 70,500
前期繰越収支差額	0	70,500	0	0	0	70,500
次期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0

第20回胸部X線写真読影合同検討会

平成23年1月27日午後6時30分から原対協4階会議室において、胸部X線写真読影合同検討会を開催した。この検討会は、平成元年8月に広島市から委託を受けた肺がん検診における読影の精度向上を目的として開催しているもので、今回が20回目にあたる。



当日は、読影委員13人のうち、妹尾紀具、倉岡敏彦、奥道恒夫、木村昭二郎、江川博彌、長谷川健司、大道和宏、奥崎 健、中村賢二の各医師と、広島市の保健センター医師4名、及び当センターから佐々木英夫所長をはじめ医師8名と診療放射線技師数名が参加した。

今回は、平成21年度の検診で新たに発見された14例の原発性肺癌症例のうち5例についてX線フィルムが供覧された（表1）。佐々木英夫所長の司会により、これらの症例について各読影委員が平成21年度及び過去の間接フィルムの検討を行い、次いで胸部X線・CT写真を供覧し、検診時の写真との比較検討が行われた。その後、当センターの石田、加藤各医師から病歴および他の検査所見、手術所見などについての説明が行われた。

表1 平成21年度 原発性肺癌症例一覧表

No	性	年齢	組織型	最終病期	治療
1	M	73	腺癌	T2N0M0 I B	手術
2	F	68	腺癌	T2N0M0 I B	手術
3	M	74	腺癌	T1N0M0 I A	手術
4	F	71	腺癌	T2N0M0 I B	手術
5	F	76	腺癌	T1N0M0 I A	手術
6	M	77	腺癌＋小細胞癌	T2N1M0 II B	手術＋化学療法
7	F	64	腺癌	T1N0M0 I A	手術
8	M	73	腺癌	T2N0M1 IV	化学療法＋放射線療法
9	M	88	腺癌	T1N0M0 I A	手術
10	F	49	腺癌	T1aN0M0 I A	手術
11	F	6	腺癌	T2aN0M0 I B	手術
12	M	66	腺癌	T3N2M0 III A	手術＋化学療法
13	F	59	腺癌	T2aN0M0 I B	手術
14	F	71	腺癌	T1aN0M0 I A	手術

No.10～14は、平成22年1月以降の症例であり、最終病期分類は、改定後の肺癌取扱い規約第7版による。

次いで、平成21年度の受診者数、肺癌症例の集計結果、発見率が報告された（表2）。受診者は、男性8,149人、女性11,960人、合計20,109人で、年齢別では60歳代が最も多かった。要精検者は523人、要精検率（要精検者／受診者×100）は2.6%（2007年度全国平均2.8%）であった。

読影委員の先生から、原発性肺癌の発見率(人口

10万対比)69.6（全国平均は約40）、手術施行率92.9%は、間接フィルムによる検診としては立派な成績であるとの講評をいただいた。

検討会の後、来年度より胸部X線撮影を従来の間接フィルム（アナログ）から順次デジタルに移行するため、読影機器の説明がメーカー担当者と石田医師より行われた。読影委員の先生からは、

「時代の趨勢でデジタルへの移行はやむを得ない。デジタルは比較的読影が容易になるなどの利点があるが、淡い陰影が写り難く注意を要する。」との

貴重なアドバイスがあった。

今回の検討会も、今後の検診精度向上を目指す意味で非常に有意義であった。

表2 胸部X線 年齢別判定

(単位:人)

判定 \ 年齢	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
A(判定不能)	0	0	0	0	0	0
B(異常なし)	1,969	2,333	7,420	5,345	783	17,850 (88.8%)
C(要経過観察)	43	98	532	797	266	1,736 (8.6%)
D(肺癌以外の要精査)	10	7	44	65	29	155 (0.8%)
E(肺癌疑いの要精査)	23	48	142	124	31	368 (1.8%)
計	2,045	2,486	8,138	6,331	1,109	20,109 (100%)

第56回胃集検合同検討会

平成23年2月24日、原対協1階精密健診コーナーにおいて、平成21年度に実施した胃集検により発見された胃癌症例等について、合同検討会を開催した。この検討会は、X線撮影技術及び読影技術の向上を目的としており、昭和40年から開催されている。

当日の参加者は、読影委員として鮎川 魏、加藤雅史、吉原正治、北台靖彦、日山 亨、木村昭二郎、石根正博の各医師と、当センターより古川常務理事、佐々木所長のほか医師8名と診療放射線技師等が出席した。

今回の検討会は胃癌9例、食道癌2例の計11例について、胃集検フィルムを読影委員が再読影し、その後、上部消化管内視鏡検査所見、手術所見、病理結果との対比を行い、胃集検X線撮影時また読影時の問題点について活発な討議が行われた。

最後に、平成21年度の被爆者胃癌検診及び健康増進法に基づく胃癌検診（市民健診）の成績が報告された。被爆者胃癌検診の受診者は4,971人（男性2,659人、女性2,312人）で、要精検率は6.8%、精検実施率は95.9%であった。発見された胃癌症例は17例（男性14例、女性3例）で、がん発見率0.34%、陽性反応適中度は5.0%であった。健康増進法に基づく胃癌検診の受診

者は17,718人（男性6,949人、女性10,769人）で、要精検率は5.7%、精検実施率は80.8%であった。発見された胃癌症例は27例（男性22例、女性5例）で、がん発見率0.15%、陽性反応適中度は2.7%となった。日本消化器がん検診学会の全国集計結果と比較して、被爆者検診ではがん発見率及び陽性反応適中度が、健康増進法に基づく胃癌検診では陽性反応適中度が高く、当施設においてX線撮影技術及び読影技術を含め精度の高い検診が行われていることを改めて示す結果となった。

また、発見された早期胃癌症例のほとんどで追加撮影が行われており、胃癌の早期発見には放射線技師による追加撮影も重要であることが確認された。

今回の検討症例の詳細は、次表のとおりである。



第56回胃集検合同検討会での検討症例

症例	年齢	性別	検診所見	最終診断
1	81	男	胃角部小弯、欠損様	胃癌、Type0 II a(高分化型管状腺癌、深達度M)
2	77	女	体部後壁、レリーフ集中	胃癌、Type0 II c(未分化型腺癌、深達度M)
3	71	男	幽門部、ニツシエ	胃癌、Type2(組織型・深達度不明)
4	72	女	幽門部、欠損様	胃癌、II c様進行癌(中分化型管状腺癌)
5	75	男	噴門部、欠損様	進行性胃癌(詳細不明)
6	64	女	前庭部、欠損様	進行性胃癌(詳細不明)
7	68	男	前庭部大弯、欠損様	胃癌、Type2(組織型・深達度不明)
8	74	女	幽門部、欠損様	胃癌、Type2(組織型・深達度不明)
9	79	男	異常なし	胃癌、検診より3か月後にスキルス胃癌発症
10	74	女	食道中部、欠損様	食道癌、Type1(扁平上皮癌)
11	72	男	食道中部、欠損様	食道癌、Type0 II c(扁平上皮癌)

第4回マンモグラフィ読影合同検討会

平成23年3月25日午後7時から、広島市医師会臨床検査センター会議室において、マンモグラフィ読影合同検討会を開催した。この検討会は、マンモグラフィ読影技術の維持・向上のため年1回開催しているもので、今回は読影委員の澤村明廣、野宗義博、古本福市、木村昭二郎、小西和男、原田寿子、稲田陽子、重松英朗、前田 亮（臨床検査センター）の各医師、また当センターからは真田会長、佐々木所長のほか医師2名と放射線技師10名が出席した。



前田医師の司会により10症例を1時間半かけて読影・検討した。マンモグラフィの読影にあたり、悩ましい症例や見落とししかねない所見が集中的に選ばれており、診断後の治療経過までたどっていく中で活発な意見交換が行われ、今後も継続して開催することを確認して終了した。

マンモグラフィを併用する乳がん検診は、平成18年4月にマンモグラフィ搭載車による出張乳がん検診で始まり、平成22年度におけるセンターと出張検診とを合わせた受診者数は14,212名で前年度より21.6%増、発見された乳がんは42例、発見率は0.30%だった。読影は、有資格者24名（A判定医8名、B判定医16名）による二重読影が行われている。

当センターでの二重読影では、必ずA判定医を含めて行っている。今回、読影グループを立ち上げていただいた村上医師が、検討会当日に緊急手術のため参加していただけなかったことは非常に残念であったが、今後も当センターの読影システムに助言をいただけることになっている。

医療機器の整備

＝フラットパネル（FPD）搭載透視撮影装置の更新＝

本会では、健康診断の精度管理の向上と健康管理の一層の充実を図るために、順次医療機器の更新整備を行っている。今回、フラットパネル(FPD)を搭載した透視撮影装置を平成23年3月22日に更新整備した。

この装置は、フラットパネルが第3世代にバージョンアップされ、画質の自動補正機能により高濃度部と低濃度部が均一化され、これまで以上に鮮鋭度、コントラストの高い画像が表示可能となった。

また、低線量パルス透視により散乱線が低減され、受診者の被曝線量を2分の1以下にすることが可能となった。



機種名：(株)日立メディコ社製 EXAVISTA
FPD搭載デジタル透視撮影装置
整備事業費：30,975,000円

＝胸部X線検診車の配備＝

この度、平成11年3月に配備されていた胸部X線検診車（1号車）が平成23年2月25日に更新された。（広島市から貸与され本会に配備。）

本検診車は、DR CALNEO MB（FPD立位撮影装置）を車載している。これは「ISS方式」のFPDを搭載した機器であり、光信号のセンサーが到達するまでの距離を短縮し、拡散・減衰を抑えこむことで、X線変換効率を向上させ、さらに、精密塗布技術や粒子形成技術により、蛍光体層を厚くして高密度に蛍光体粒子を配置しているため、これまで懸念されていた画質の問題を解決し、少

ないX線量で高精細なX線画像を撮影でき、撮影後、約3秒で画像を表示するなどの確認の時短化が可能になった。

また、検診受付装置にはQRコードを使用しており、受診者属性及び画像属性をデジタル画像処理装置に通信し撮影が可能であり、撮影した受診者の情報はデータベース化し、保存できる。

なお、今回の検診車のデザインは、広島市健康福祉局保健部保健医療課から広島市立基町高等学校普通科創造表現コースに依頼して、2年生の生徒のデザインが採用された。



健康科学館企画展のご案内

企画展「㊦と㊧の物語」～甘いもからいもあなた次第～

平成23年2月26日(土)から7月10日(日)まで、企画展「㊦と㊧の物語」～甘いもからいもあなた次第～を開催しています。

㊦と㊧？ 今回の企画展は、日常何気なく使っている砂糖と塩に注目して、そのルーツやパワーを探ります。

砂糖と塩は、食べ物をおいしく食べるためになくはない調味料であり、からだにとっても砂糖はエネルギー源となり、塩は体温調節や消化吸収に関わるなど大変重要な働きをしています。また、食用としてだけでなく、生活の中でも様々な場面で幅広く使われています。

企画展では、歴史・作り方・効用・健康との関係・上手な付き合い方などを妖精の“ソルトくん”と“シュガーちゃん”が紹介しています。

「砂糖の発見地はインド！」、「サラリーマンの語源はソルト！」などの豆知識をはじめ、「すごい！」、「なるほど！」情報が満載です。砂糖と塩の結晶、岩塩ランプ、砂糖で作ったケーキ、塩で作ったツリーなど、見たり触ったりできる実物展示やクイズでも楽しんでいただけます。関連の講

座としては、実習や実験を取り入れて砂糖と塩の特徴や働きを紹介する教室を計画しています。

見た目は同じような白い粒子で見分けがつかないけれど、まったく違う性質を持つ砂糖と塩。「太る」、「血圧が上がる」と嫌われることもあるけれど、毎日の生活に欠かせない砂糖と塩。企画展を通して、砂糖や塩との上手な付き合い方を学んでいただきたいものです。



<企画展開催期間>

平成23年2月26日(土)～7月10日(日)

行事と会議

＝平成22年＝

- 12月3日 役職員懇話会
- 12月10日 中間監査（～14日）

＝平成23年＝

- 1月13日 医療職員接遇研修（～2月17日）
- 1月20日 広島市との定例会議
- 1月27日 胸部X線写真読影合同検討会
- 2月9日 臨床検査センターとの実務者会議
- 2月10日 献血
- 2月24日 防火訓練
- 胃集検合同検討会



- 2月26日 企画展「㊦と㊧の物語」（～7月10日）
- 3月1日 第3回医療安全研修会
- 3月16日 臨床検査センターとの実務者会議
- 3月17日 広島市との定例会議
- 3月24日 理事会・評議員会
- 3月25日 マンモグラフィ読影合同検討会

人事

＝平成23年3月31日付退職＝

参事	畑口 實
受付課長	御園生靖子
精密健診科長	佐々木敦紀
がん検診科長	石田 啓
健康管理センター医師	平岡佐知子
看護科保健師	柳田 裕子
健康増進科主事	佐藤 玲子
健康科学館長	中村 亨
健康科学館教育課長	藤原 洋子

＝平成23年4月1日付採用＝

精密健診科長	川西 昌弘
健康増進科長	井上 典子
健康管理センター医師	山下 政代
健康増進科主事	片岡奈都美
健康科学館館長	岡本 和之
健康科学館教育課長	植田 智子

来館者

＝平成22年＝

12月1日 HICARE研修受入

(韓国 KIRAMS等 15名)



12月10日 長崎原対協職員 (2名)

＝平成23年＝

1月13日 有福温泉荘運営協議会役員来所

1月26日 HICARE研修受入 (韓国 1名)

嶺南大学病院内科部

血液学科・腫瘍学科 講師

キム・ミンキョン



2月16日 HICARE研修受入

(ブラジル3名・アメリカ2名)

クリチーバ日伯文化援護協会

放射線技師

エアトン・セイジ・ヤマダ 他2名

プロヴィデンス・リトル・カンパニー・オブ・マリー

医療センター・トランス 救急医療部

部長 ジョージ・ヴォーナス 他1名

